

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成 21 年 2 月 26 日 (2009.2.26)

【公開番号】特開 2007-189124 (P2007-189124A)

【公開日】平成 19 年 7 月 26 日 (2007.7.26)

【年通号数】公開・登録公報 2007-028

【出願番号】特願 2006-7082 (P2006-7082)

【国際特許分類】

H 0 1 G 4/228 (2006.01)

H 0 1 L 23/28 (2006.01)

H 0 1 G 4/224 (2006.01)

【F I】

H 0 1 G 1/14 Q

H 0 1 L 23/28 K

H 0 1 G 1/02 H

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 1 月 8 日 (2009.1.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上面に開口部を有するケースと、このケース内に収容され、電極を有するコンデンサ素子と、一端を前記コンデンサ素子の電極と接続し、他端に外部接続端子部を備え、前記外部接続端子部を前記ケースの開口部付近で外方へ L 字状に折り曲げられた形状とした金具と、前記ケースと前記コンデンサ素子の隙間に注入された充填樹脂とからなるケースモールド型コンデンサにおいて、前記外部接続端子部は前記ケースの開口部に固定された端子固定体を貫通した形で外方へ表出しており、前記端子固定体の上面は前記充填樹脂より露出するとともに、前記端子固定体は前記外部接続端子部が L 字状に折り曲げられた方向で前記ケースの開口部に当接して固定されていることを特徴とするケースモールド型コンデンサ。

【請求項 2】

前記外部接続端子部は複数設けられ、前記外部接続端子部とともに一体化した前記端子固定体に設けた支持体により、前記外部接続端子部が L 字状に折り曲げられた方向で前記端子固定体が前記ケースの開口部に当接して固定されていることを特徴とした請求項 1 に記載のケースモールド型コンデンサ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

そして、この目的を達成するために、本発明は、ケースの開口部で外方に L 字状に折り曲げられた複数の外部接続端子部を端子固定体によってケースの開口部で、外部接続端子部が L 字状に折り曲げられた方向に固定し、この端子固定体の上面を充填樹脂より露出させたものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

本発明のケースモールド型コンデンサは複数の外部接続端子部を端子固定体によってケース開口部で、外部接続端子部がＬ字状に折り曲げられた方向に固定するとともにこの端子固定体の上面は充填樹脂より露出させているので外部接続端子部を安定させ、かつ、外部接続端子部とケース内壁面との間で毛細管現象などが起きることなく充填樹脂が外部接続端子部を這い上がることがなくなる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

本実施の形態における発明によれば、図１のごとく外部接続端子部３と充填樹脂６との境界部分を端子固定体４で覆い、端子固定体４の上面を充填樹脂６より露出させるとともに、端子固定体４は外部接続端子部３がＬ字状に折り曲げられた方向でケース５の開口部に当接して固定されているので、外部接続端子部３を充填樹脂６が這い上がるといったことがなくなり、外部接続端子部３における充填樹脂６の付着を防止することができるものである。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

また、図２のごとく端子固定体４は一对の外部接続端子部３と一体化されてケース５の開口部で、外部接続端子部がＬ字状に折り曲げられた方向に固定されているので、外部接続端子部３の位置規制も容易になるものである。このとき、図１のように支持体４aを端子固定体４に設けることによって、端子固定体４のケース５への密着がさらに増し、外部接続端子部３の位置規制もより確実になるという効果も奏するものである。